



第86号
肥田町
まちおこし
推進協議会

肥田町の防災について

副自治会長 西田 幹雄

記録的な猛暑になったこの夏、テレビや新聞では毎日のように熱中症の報道がされ、皆さんも体調の管理にはご苦労されたことと思います。

近年、竜巻や集中豪雨など異常気象が多く発生していますが、肥田町では、幸い大きな自然災害もなく生活できていることは幸甚なことだと思います。

私の記憶に残っている災害としては、伊勢湾台風があります。昭和三十四年、今から五十五年前、私は小学校三年生でした。伊勢湾台風は、強風と豪雨で「スーパー台風」と言われ、五千九十八名の方がお亡くなりになるなど、多大な被害が発生しました。私は、今でも怖かったことを覚えていますが、

他にも記憶に残っている大きな災害があります。平成七年の兵庫県南部地震、平成二十三年の東北地方太平洋沖地震、平成二十八年の熊本地震などです。多くの方がお亡くなりになり、一瞬に生活の場を奪われるなど、大変な

ご苦労をされており、今も復興がすすめられています。

こうした思いから、去る八月二十五日、彦根市防災訓練が開催されたのを機会に、住民参加訓練・各体験訓練・各防災機関訓練を体験してきました。



今年の肥田町防災訓練はあいにくの台風のため中止せざるを得なくなってしまうでしたが、稲枝地区では数年前に愛知川が氾濫し、大変な被害を受けたことは記憶に新しいことです。昔、宇曽川が氾濫し、この肥田でも被害が出たと聞いています。願わくば、全く



平成2年台風19号の水位実績標柱
～愛知川堤防：階段上3段（約60cm）～

災害を受けることなく、日々平穏に暮らせることを願っていますが、自然の力には勝てません。

今後、河川の氾濫による水害だけでなく、地震など突然の災害にあうかもしれません。西日本豪雨による死者の七割が六十歳以上の「災害弱者」であり、逃げ遅れが原因だそうです。個人情報云々と言われる時代ですが、こと災害対応からしますと、必要な情報は知り、知らしめることが大切だと思います。

町民の皆さんには、常日頃から、防災マニュアルを活用し、防災グッズの準備や避難場所の確認などを行いまししょう。被害を未然に防ぐためには、すばやく行動する必要があります。身近に身体の不自由な高齢者がおられましたら、手助けをお願いします。地域の皆さんも防災活動にご協力くださるようお願いいたします。

小宮祭りと夏祭りを終えて

自治会文教部長 藤野人美

五月晴れのもと、肥田町小宮祭りが行われました。このところ年々進んで行く高齢化と少子化に伴って、昨年同様、渡りの実施を残念ながら取りやめさせてもらいましたが、金刀比羅神社、住吉神社、それぞれ祭礼が行われ、その後、「火伏せの神」の祭礼に自治会役員をはじめ多くの町民の方々が参列されました。「火伏せの神」様には「おいなりさん」と「あたごさん」が合祀され、五穀豊穡と防火の守護神が町の守護神として祀られ崇められています。今年一年の無事を心から祈念しました。



NHKニュースのおはよう日本で、「祭りどう存続？地域の葛藤」と題した和歌山県漁師町の話です。

江戸時代から四百年の伝統を持つこの祭り、神輿を担ぐ人など祭りの担い手の三割は地元の人ではありません。高齢化や人口減少が進み、親戚や知人のつてを頼つて外から人を集めないと、祭りが成り立たなくなっているのです。

今、多くの地方がこうした悩みを抱えているといえます。祭りの研究者によれば、人知れず消えて行く祭りが加速度的に増えている一方、外部の力を借りてまで祭りを存続すべきなのか葛藤している地域もあります。最終的には地域がどちらを選択するかだと思います。ただ、祭りというのは単なるイベントではなく、その地域の子どもからお年寄りまで一緒になつて祭りを行つていくというものであり、準備から片付けまで大変手のかかるものですが、そういうことをやることでコミュニティの健全と言いましようか、地域コミュニティがうまくなされていくといふことにつながるでしょう。

ある地域では、高齢者でも神輿をかつげるような急な階段を避けるなど地元の人々が参加しやすい方法を考え始めています。外部の力を借りながら地元が納得できる祭りにできるのか、ジレンマの中、模索を続けているそうです。昔みたいないない勢いではできないかもしれないけれど、みんなと共にする時間は大事なので続け

ていきたい。柔軟に考えて、この祭り、神輿が存続できたらという思いを語られていました。

今後、肥田町もどんな形で、どんな祭りとして、次の世代へ伝えていけるだろうかと考えさせられました。と同時に、祭りを続けていく大事さを思い知らされました。



八月の暑い中、十一日、回を重ねて今年も肥田町のふるさと夏祭りを開催しました。幸いにして天気にも恵まれ、町民のみなさんに加え親戚の方々も多数参加いただきました。各種団体や自治会の模擬店に盛大に盛り上げてもらい、盆踊りは時間延長しての熱演ぶりに皆さんには大いに楽しんでいただけたと思っております。ビンゴゲームには多くの方がワクワクドキドキながら参加いただき終演

を迎えることができました。ありがとうございました。

子どもからお年寄りまで、町全体が楽しめる機会を設けることができ、みなさんの親睦を深めることができました。祭りの準備、片付けでは自治会、各種団体の役員の皆さんに大変お世話になりました。りがとうございました。お陰をもち無事に終えることができました。感謝しています。今後とも夏祭りや地藏盆が町民全体のふれあいの場として充実していくことを願っております。

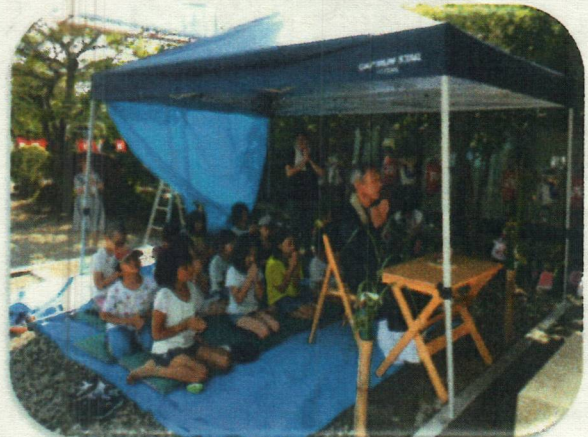
子ども会活動について

子ども会長 大村恭子

今年の子ども会は、男子三人、女子九人で活動しています。軒数にして八軒です。数年前に比べると半分ほどになりました。そのため、リサイクル活動や地藏盆の準備も以前は高等児の親と子供たちが行っていました。近年は全学年の子供たちや親の協力がなければできなくなつてしまいました。

少しでも負担を少なくということ
で、夏休みのラジオ体操は前半のみと
なり、子供会の町旅行はボーリング大
会と食事会に変更となっています。町
水泳に関しても他の町の参加がなくな
り、今はありません。

親の方としては助かっている一方、



子ども達からしてみると、ラジオ体操の後、日曜学校でお経を誦んでから遊んだ後、町水泳で自由に泳ぐのも夏休みの楽しみだったように思います。

これからも子供会の人数や軒数は大きく増えることはないと思います。そうすると、何度も役員が回つてくるなど、親の負担は大きくなり、簡素化していくこともやむを得ませんが、子ども達が楽しく子供会活動に参加し、伸び伸びと育つてくれることも大切です。この狭間の中で、まだまだ解決方法は見えませんが、今後とも考えながら歩んでいきたいと思ひます。

町民の皆さんには、今後とも子供会活動にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

生き物観察会の開催

五年 本持琉衣

今日の生き物観察会で、東町の小川が少しよごれているのが分かりました。合計で「少しよごれている」になったけど、中にはザリガニがいました。私は、この間本でアメリカザリガニが特定外来種ということを知りました。このままザリガニが多くなると・・・と考えて、これ以上、川がよごれないように、自分のできることをやりたいと思いました。

四年 大村りおな

生き物観察会で、川の水が少しよごれていると分かりました。これからはみんなできささないようにしたいです。

四年 さつまあん

私は、いきものかんさつかいをして思ったことは、いろいろないきものをつかまえてたのしかったです。昔は、川でおよいでいたけど、かわがきたなくなつてあそべなくなつたときいて、ゴミを川にすてないようにしようと思いました。

四年 松枝義陽

川がよごれてきているので、きれいにしなければならぬと思いました。



三年 松山真愛

わたしは、きょう外で、川に行つてさかなをつかまえてきました。だけれど、つかまえられなかったです。わたしは、スジエビしかとれなかったです。だけれど、スジエビをとれてうれしかったです。

二年 いとうめい

きょうは2かいめのいきものかんさつかいです。ザリガニやえびがいて、おもしろかったです。

二年 みや川ゆずき

きょうは、いきものかんさつして、いろいろなえびがいました。おさかなもいました。川はいつてたくさんのがいてびっくりしました。あつかったけど、おもしろかったです。

二年 元持美月

きょうは、さいごに、ザリガニがいてうれしかったです。



ぼく、アブラハヤっていうんだ。みつけてね。



二年 本持真宏

きょうは、いきものかんさつかいで、魚をみつけました。びっくりしました。ほかにアメリカザリガニがいました。

一年 まつえじゅんぺい

いろいろないきものがみれてよかったです。たのしかったです。

一年 松山朝華

わたしは、きょう外で、川に行つてさかなをみて、うれしかったです。

一年 元持みゆき

きょうは、いきものかんさつに始めていききました。かわにいて、えびがたくさんいてびっくりしました。

ふるさと歴史探訪記 2

高瀬 俊 英

「小字名」が歴史的遺産

肥田町まちおこし推進協議会（自治会）では、先の広報でお知らせしたとおり、木製立看板十五本をスチール製（三津、旗屋護製）に更新しました。
私たちが日常的に使っている東町、西町、登町は現在も肥田に残る小字名です。この小字名や西肥田地区の小字名も含めて、肥田には約九十の小字名がありました。つい最近まで、私達は互いに

小字名を使って、その位置を確かめあいました。
ところが、肥田の地表が一変した圃場整備完成以降は、小字名で呼ぶ機会も少なくなり、急激に脳裏から消え去ろうとしています。時代の変遷、諸行無常の習い、いたし方がありません。

「小字名」の誕生はいつか

千三百年前にさかのぼります。
奈良時代前、中国の唐の制度を習い、大和朝廷が都とともに耕地の区画を行いました。
旧の彦根市地域に先駆け、エチ、犬上では、耕地を六町（約六五四町）間隔で

縦横に区切り、六町間隔の列を「条」、六町平方の区画を「里」と呼び、一里はさらに一町（約一〇九町）間隔で縦横に区切って一坪（三六坪）とし、近江国エチ郡〇条〇里〇坪と呼ぶことで、地点の指示を明確にしました。（条里制という）
この、それぞれの地点に人が住み始めると、一坪位を単位変形の場合もあるに愛称がつけられました。例えば、西肥田から肥田へ向かう県道の右側には、山田、築作、八重、殿江、地無、手倉田などです。名付け理由が分かりそうな小字名としては、神木立、賽寺、官前、馬場、法光寺、伊関、鹿島、道場屋敷などがあります。

編集後記

（森田喜久雄）

厳しい夏の暑さも過ぎ、秋の気配が漂って参りました。今年の夏は例年にならない暑さで、異常気象という言葉がピッタリだったように思います。

こうした中、大阪や北海道では地震が、西日本各地では集中豪雨や台風被害が発生しました。我が肥田でも台風二十一号による被害を受けられた方が多数ありました。想定内・想定外と言われますが、想定は人が行うものです。地域として個人として、災害時の命を守る方策が十分なのかどうか、今一度、考えておく必要が感じられます。

今年も夏祭りが盛大に行われました。さながら同窓会かと思える語り合いもあり、主催者の思いが通じたようです。

地蔵盆では、法光寺に住職様の読経に合わせた小さな手が印象的でした。健やかな未来が開かれるよう念じています。成宮一郎様の指導によるお魚観祭会、自然を大切にする心が芽生えたようです。



道場屋敷

